

広報

二科

春季展から  
秋の第 106 回展へ

新しい風が吹く

2022 年 3 月 春季号

春～秋

CROSS TALK

第 105 回記念二科展

～新人受賞者に聞く～

嵐蒼樹 / 平良光子 / 春木凛

春季展特集・二科展出品者支援講座

公益社団法人 二科会

2022年  
3月春季号

# 広報 二科

題字 田中 良

春季展から秋の第106回展へ

新しい風が吹く

- 私たちが伝えたいことⅠ……………2  
西 健吉  
吉野 毅
- CROSS TALK……………4  
平良光子  
春木 凛  
嵐 蒼樹
- 講座—ワークショップの成果……………9  
中原史雄
- 春季二科展絵画部—新しい試み……………10  
生方純一
- 二科展出品者支援講座……………11  
田浦哲也  
山中宣明
- チャレンジ第106回二科展……………12
- 出品 Q & A……………14
- 私たちが伝えたいことⅡ……………15  
香川 猛  
小田信夫
- 第105回記念二科展外部審査選考評……………16  
建畠 哲 (外部審査員)
- 第105回記念二科展受賞者・推挙者……………19
- 制作の現場から……………20  
田中 良の ATELIER
- 石場…石を彫る場所……………22  
菅原二郎  
藤沢 恵  
宮澤光造
- 二科会 問合せ先一覧……………24



● ― 二科を愛し二科と共に歩んできた ―  
**西健吉 ― 絵画部会員**

西健吉会員は、のちの初代理事長、吉井淳二事務局長が深くかわる『南日本美術展』に出品していた。その展覧会は、海外への留学制度もあり、新人育成に力を入れている別名美術学校と呼ばれ、第27回展で県知事賞を受賞しました。そして二科展を目指し絵を描き続け、2年後の1974年に二科展初入選を果たします。

「初入選の知らせに喜び、急行列車で一昼夜かけて東京へ向かいました。上野に着くと二科展会場の東京都立美術館へ直行し、吉井先生を訪ねました。会期中のお忙しい中にもかかわらず、3階の展示室へ『君の作品はあそこだよ!』と、作品の場所に案内してくれました。その時いただいたアドバイスを励ましは、忘れることはありません。天井近く三段掛けの一番上、見上げる程の高さに掛けられていました。それでも嬉しかった事を昨日の事のように覚えています。周囲の絵は全く目に入らず、自分の作品が二科展の会場にある、それだけで満足でした。気持ちの高まりが止まない中、上野公園のレストランから漂うハヤシライスの匂いに東京を感じていました。」「フランスへ留学の際も公募展サロン・ドートンヌに入選を果たすことができました。折しもその年は二科展とのコラボが行われた年、当時二科会の東郷青児会長もバりに滞在されており、展示作業を手伝う中で、東郷先生から直接、指導を受ける幸運にも恵まれました。私にとって二科は、大切な人生の歩みです。」と当時を振り返り話してくれます。「全国の出品者の作品との出会い、会員同士のコミュニケーションの深まりが楽しみで、年に一度、約2週間の東京滞在は、今では私の1年間の生活の中心となっています。東京から鹿児島への帰路についても、淡路島、小豆島、和歌山の海を取材することもあり、大切な機会です。」と。西健吉・・・第98回二科展で内閣総理大臣賞受賞、2018年に文科省より地域文化功労賞を受賞。令和3年度県民表彰（鹿児島県）にて「教育文化スポーツ部門」を受賞、常務理事として巡回展部を担当し、先達から受け継いだ温かい新人育成に力を注いでいます。



**二科を愛し  
二科と共に歩んできた。  
そしてこれからも...**

私たちが伝えたいこと I

● ― 人体像に備わる普遍的な美学の真髄 ― **吉野毅 ― 彫刻部会員**

吉野毅会員の作品を追求する姿は、石膏に向かい指先の感覚でわかるか判らないくらい量の削り、そしてまた、つけては削りを繰り返す制作スタイル：現代の塑像彫刻の第一人者です。インタビューの中で「1970年ごろ、美術界では抽象彫刻が世の流れとして隆盛でした。コンクールや二科展でも抽象的な作品が多かった。それでも具象にこだわり具象作品を発表し続けた。〈作品に言葉をもたせる〉それをめざし、抽象/具象のカテゴリーの垣根を超えた彫刻表現の『幹』になる。それだけを考えていた。―と強い意志の基に語っています。真っ直ぐな姿勢は、二科会彫刻部内にも息づき、「二科展の総合美術団体展としての生命線は、会員会友に関わらず出品者全員の商品そのもの。」若い出品者に「1年目であろうが、50年目であろうが同じフィールド仲間でありライバルです。」と話しかけます。展示場に響く声と精緻な作品は、吉野毅作品に宿る普遍的な美の一端と強い精神性を感じます。

吉野毅・・・二科展彫刻部に1968年に初出品特選を受賞し77に会員、82ローマ賞、03文部科学大臣賞、常務理事として二科会の指導的存在、二科会内にとどまらず、横浜港にシンボリックな女神像として知られる「みちびき」など、パブリックアート野外作品も多数設置、令和2年12月には日本芸術院会員に選出されました。



**総合美術展覧会としての生命線は、**

**作品そのもの...**



二科展に出品するきっかけは？

# CROSS TALK

聞き手 二科会広報部

## 新しい風を吹かせた …受賞者に聞く

一年に一度作品を発表するチャンス

二科賞・会友推挙  
彫刻部  
平良光子 (神奈川)

◆入選2回目

初めて二科展に出品したのは大学4年生の時で、前年に先輩の作品を観に行ったことがきっかけです。卒業後どのように制作を続けていけば良いか悩んでいた時期でした。学校という場を離れても、一年に一度作品を発表するチャンスを得る公募展を知り、制作を続ける上でとても励みになるのではないかと思い、翌年出品してみることになりました。また、展示会場で解説してくださった二科会の皆さんの様子から、ここに出品できたらきっと勉強になるな、と感じたことも大きな理由です。



二科新人賞  
春木 凛

絵画部  
(大阪) ◆◆入選2回目



「碧をまとう I」 二科新人賞受賞作品

油絵を習い始め4年が過ぎたころ、他の全国公募コンクールに出品していました。何度か出品してうちに10号サイズくらいしか描いていなかったのに、「もっと大きいのを描いて公募展とかに出していきたい!」と憧れがありました。同じ教室の生徒さんも大きい絵を描かれている方がいたので・・・「よし出すぞ!」と公募展をいくつも観に行きました。その中で、二科展を観たときにすべての絵が凄く色が綺麗で、私は色の美しさが大好きで、好みの絵ばかりでした。「あっ!ここはすごい色きれいだから出したい!」と思ったのがきっかけです。

新人奨励賞  
嵐 蒼樹

絵画部  
(石川) ◆◆初入選、第105回最年少受賞



「Glint」 新人奨励賞受賞作品

地元金沢での二科展巡回展が金沢21世紀美術館で行われていて、迫力のある絵が展示されていました。そこに出身高校の美術の先生が出品されていて、その方が二科北陸支部の粕谷先生でした。先生が僕の描いた絵を「二科展に出してみないか?」って声を掛けてくださったのがきっかけです。

もっと大きいのを描いて  
公募展とかに出していきたい!

二科展に出してみないか?

コロナ禍で  
二科展が延期になり、  
制作に向かう気持ちを  
どのように  
高めてきましたか？

絵を描き始めた…  
彫刻をつくる…  
美術の扉を開いたのは  
いつのころですか？

春木 凜 ◆◆

かねてからずっと芸術・・・絵画を習いたいと思っていたので、26歳ぐらいのときに一大決心して絵画教室に習いに行き始めたのが絵を始めたきっかけです。すごく油彩が描きたくて！元々絵は習いたかったのですが、大学受験も、経済とかに興味があったので、結構視野を色々広くもちたいというのがありましたのでその時は美術系には進みませんでした。絵画を習い出した当初から孔雀を描きたくて現在も描き続けています。

U35 奨励室  
(35才以下)



嵐 蒼樹 ◆◆

昔から絵が好きでしたが、高校に入る前まではスポーツをずっとやっていました。でも絵が好きだったことは忘れられなくて高校で美術部に入りました。そこからずっと絵を描いています。もう高校生活の間、絵の魅力にずっと惹かれてこつちの道に進みたいなと思っていました。



平良光子 ◆◆

もともと美術とは違う分野の大学に行きたくて、浪人している時期がありました。その時、自分の通っていた予備校の近くに、偶然美術の教室を見つけたことが今に繋がるきっかけです。



初めて、美術を勉強している同世代がこんなに沢山いるのかと知り、驚きました。最初は美大を受ける気持ちは全くなかったのですが、興味本意で、夜間の初心者向けデッサンコースに週一度、3時間だけ通うことにしたのです。すると、今まで全く知らなかった世界、友人や作家活動をしている先生方との出会いがとっても新鮮で、好きに描いてきた絵を改めて学ぶというのも楽しく、ついに進路を変更するほど美術に魅せられてしまいました。その中でも彫刻を選んだのは、何だか面白そうという一点です。



嵐 蒼樹 ◆◆

僕は今回初出品なので待つという感覚はありませんでした。モチベーションに関してはコロナ禍っていうのは、いろいろ大変で逆にそういう時こそ美術の力が大いに発揮できるんじゃないかって思い、このような環境下だからこそ、俄然やる気みたいなものが出てきました！

平良光子 ◆◆

延期になってしまったのは残念でしたが、大きな作品を出品する予定だったため、時間がいくらあっても足りないくらいでした。なので、延期のお知らせも「あと一年しっかり手を入れられるな」と、前向きに捉えて制作できたように思います。  
(しかし結局、ぎりぎりの完成でした…)

春木 凜 ◆◆

いつも結構ギリギリまで描いているタイプで、会期が延期になって逆に満足いくまで時間をかけて描くことができ、「今年ちょっとラッキーだなあ」と思っていました。いつも搬入ギリギリで「あーどうしよう」と、なんとか納得いく形にはしますが、もう少しと描き込みたいと思うことが多いので、今回は、なんとか結構満足いくまで描けました。モチベーションというよりも・・・頑張ってたすら走っていたという感じの二年です。

# 第106回に向けての抱負は……

嵐 蒼樹 ◆◆

僕はよくサイクリングをするのですが、新しい風景とか場所を見た時って、感情が高揚するんです。そういった新しいものを見ることで、インスピレーションを得ています。とにかく色々なところに訪ねて行きたいと思っています。大学に進学することで地元から離れたので、見るものが新しく周り一杯あり、その見るもの全てを見ていきたい……そう考えています。その見たものを取り入れて今後の作品作りに励んでいければと考えています。それと子どもの想像力ってというのはとても美しく純粹です。ただ年を重ねると余計なものに囚われてくる、「子供の純粹な気持ちで、これを描きたい！」みたいな、そういう作品を自分でも探求しながら子供みたいに描きたいなと思っています。

平良光子 ◆◆

私は、自分の中にある言葉にできない気持ちや誰かに伝えたい思いを、作品として表現しています。私にとって木彫は、とても労力のいる仕事ですが、時間をかけて練り上げる過程そのものに、魅力を感じています。一貫してモチーフに選びとっている動物には、特別な憧れがあります。柔らかな毛並みの下にある体温やまつ毛の影など、ささやかな部分に形容しがたい美しさを感じます。大きな作品に取り掛かる時も、そんな繊細さが失われないよう表現を探っています。今回の作品タイトル「Pieta」は、キリストの亡骸を抱く聖母マリアを意味し、寄り添う二頭の狼を彫りました。見た人が癒され、心の柔らかい部分にそっと触れられるような作品を目指してこれらも作っていきたくいです。

春木 凜 ◆◆

色がとても好きなので、今までもモチーフは色彩が豊かな花、南国の鳥、蝶々とか、今も制作しているところです。そういう色彩に惹かれるので、描いていきたいなって思いますし、観ていただきたい方が、カタルシスっていつのか、私の絵を観て、凄く美しいなあとか、観てくださることで、感情が解放されて、すごく気持ちが浄化してもらえそうな作品を目指していきたくと思っています。私は周りに描く友人も多くなく、今回も入選できたらいいなと思っていただけでした。受賞のお知らせを頂いたときに「ええ〜！本当にく〜！」と信じられませんでした。なので今回の二科展での受賞はちよっと自信をいただいたのが大きかったです。

## 次の風を吹かすのは…… 私たちは 新しい風を待っています

### 講座——ワークショップの成果—— 中原史雄

## 二科会の新たな試み

二科会広報部チャンネル  
講演とワークショップ  
ダイジェスト視聴できます



「キャンパスの中は、自分だけの宇宙空間」

勢いのある人達はいいけれど、日の当たらない出品者を、元気にさせたいと常々思っている。それは意識の持ち方が大切であって、才能の有無ではないと信じているから。

2020年は二科展が開催出来ず、理事会で出品者の不安を和らげる企画を考えた一つが、新美術館講堂での「国立新美術館で輝くには」で、文化庁の芸術支援金を受けての開催となった。ところで、その企画に参加したKさんから、後日手紙が届いた。

——コロナ禍、昨年来の閉塞感のなか、あてどない浮遊した状態の中で、徒（いたずら）に時間を費やして居りましたが、私共のために貴重な時間を費やし、ご準備の資料をもとに、明快な切口と多岐に亘るご説明、とりわけ、絵具の丁寧な混色実演、斬新な画面構成の提示などを通して、制作の真摯な呼吸を、感銘を以て拝聴でき、大いに励ましとなりました。その内容の咀嚼は不十分ながら、使用する絵具の彩度や構図の取り方などその変化を不思議に感じておりました。先生のご講義がなければ今回の幸運はなかったと思っております。——

前後の文章は略したが講師冥利に尽きる手紙だった。そして、コロナ禍で制約のある中、手際よく準備を手伝ってくれた事務局スタッフ一同と共に報われた思いである。

さて、講座で話した内容を端的に言えば、絵を描く上で大切だと思うのは「整える」「まとめる」ではなく、「消す」「はずす」という勇気を持つこと。そして「頑張らない」頑張ると視野が狭くなってしまふ。柔軟に考えるよう努めると、画面は随分変化する。

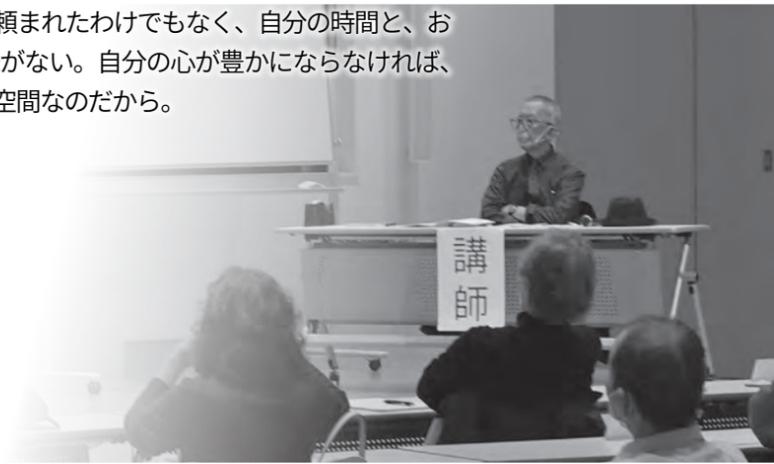
講座内容は、それぞれの参加者が持参した2年分の二科展出品作のコピー、その1枚を半分に破いて他の作品の上に置いてみる。せっかく描いた作品なのに、乱暴そのものだが、絵画空間とリズムが明らかに変化し、今まで整え過ぎていたと感じたはずだ。

今回、申込み多数の中から、国立新美術館講堂の定員MAX35名に参加して貰った。そして、その参加者の中から第105回二科展で9名の受賞者が生まれた。この難しい時に、二科会として、初めての出品者との企画であり、不安もあったが、その成果にホッとしている。2022春季二科展開催時には田浦会員、山中会員の講座がある。新たな切り口の「表現と素材について」ご期待を。

毎年、多くの人達が二科展に出品してくれる。誰に頼まれたわけでもなく、自分の時間と、お金と、場所を使って。だからワクワクしなければ意味がない。自分の心が豊かにならなければ、道理に合わない。キャンパスの中は、自分だけの宇宙空間なのだから。

- 中原史雄 略歴
- 第47回二科展初入選
- 第60回二科展特選受賞
- 第66回二科展会友賞受賞
- 第75回二科展会員賞受賞
- 第96回二科展内閣総理大臣賞受賞

現在：公益社団法人二科会常務理事



二科賞受賞作品

「Pieta」 平良光子

ZOOM 会議システムを使用した取材をもとに  
広報部で編集しました。

## 二科展出品者支援講座

日時：令和4年4月24日（日） 午前10時30分～午後3時30分  
 場所：上野・東京都美術館講堂（感染予防対策にご協力お願いいたします。）  
 応募：参加ご希望の方は、抽選応募申込書を FAX 又は Mail で送信下さい。  
 定員各120名（抽選による当選者には後日郵送でその旨お知らせいたします。）  
 講座内容 ※午前と午後、二つの講座に参加ください

- ①午前の部／過去の「…isme（〇〇主義）」に学ぶ、自分を変えるきっかけ  
 講師 田浦哲也 持物／色鉛筆、筆記用具
- ②午後の部／もう一步表現の幅を広げ深めたいあなたへ  
 講師 山中宣明 持物／スケッチブック、定規、筆記用具

参加費：3,000円/1日分（抽選当選者に後日お振り込み用紙を郵送いたします。）  
 応募締め切り：FAX・電子メールによる締め切り 3月23日（水）

メールアドレス nika@nika.or.jp（件名を「2022 支援講座抽選応募申込書」と記載して下さい。）

講座申込書



↑  
 春季二科展ページより  
 ダウンロードください

### もう一步表現の幅を広げ深めたいあなたへ 新たな技法・画材の出会いで絵は変わる

講師 山中宣明

ご存じですか？北方ルネサンス時代のヤン・ファン・エイク等が油彩画を確立する前から、油絵具は工房で練り上げ豚膀胱に詰めて作られ破れやすいので、アトリエで制作されていました。その後色々改良され 1870年頃には密閉できるチューブができて、風景等の現場での感動を戸外で描けるようになりモネ等印象派の傑作が次々と生まれました。また佐伯祐三はパリの壁の質感を出すため下塗りの工夫をすることで独自の表現を生み出しました。つまり表現したいことに合う技法や画材に出会ってこそ、壁を破りあらたな表現が生まれたわけです。

現代は芸術的価値観も拡大するとともに、必然的に表現技法や画材も飛躍的に発展してきています。この講座で色々な描画材・技法・支持体等を具体的に紹介しますので、新たな画材や画法に挑戦し表現の幅を広げ引き出しを増やすきっかけにしましょう。様々な表現技術は表面上の工夫にならず、表現したいことに近づけるための必然性が肝要です。二科会は卒業のない美術学校です。ともに学びましょう。



略歴  
 第73回二科展初入選  
 第77回二科展特選受賞  
 第81回二科展会友賞受賞  
 第82回二科展二科賞受賞  
 第88回二科展会員賞受賞  
 第89回二科展内閣総理大臣賞受賞

現在：公益社団法人二科会理事  
 二科茨城支部支部長

### 過去の「…isme（〇〇主義）」に学ぶ、 自分を変えるきっかけ

講師 田浦哲也

毎年同じことの繰り返し、絵を描くことがおっくうになったり、結果が出ないことに焦りを感じたり、誰もが陥るスランプのようなものに悩んでいる人はいませんか。本講座は、従来の写実的な具象絵画から、色の革命を成し遂げたフォーヴィスム、形の革命を成し遂げたキュビスム、そして技法の宝庫シュルレアリスム等の方法論を画像や実習を通して体験することによって、あなたの作品のブラッシュアップへと繋がります。

〇〇主義などと言うと、美術史における役割や意義など難しい話が出てきそうですが、本講座は、そんな頭が痛くなるような内容に触れるのではなく、その〇〇主義が成し遂げた成果なり技法等を中心に追体験してみようと言うものです。技法だけを表面的に真似しても、本物を掴めるかどうかはわかりません。でも先人が残した技法や方法論を辿ってみることとその挑戦は、何か自分では気付かなかったものを発見したり、自分自身を大きく変化させるきっかけになるかもしれません。古い自分を打ち破り新しいスタイルを確立（血肉化）する。それはとんでもなく大変な事です。しかし古い自分が嫌だったら、じっとしていれば嫌なままです。もっとフットワークを軽くして、いろんなことに挑戦してみたらどうでしょうか。この講座は、わくわく、ドキドキするような制作、遊び心を忘れない自由な精神を応援します。



略歴  
 第69回二科展初入選  
 第77回二科展パリ賞受賞  
 第81回二科展会友賞受賞  
 第89回二科展会員賞受賞  
 第94回二科展損保ジャパン  
 美術財団奨励賞受賞  
 第102回二科展東京都知事賞受賞

現在：公益社団法人二科会理事  
 二科福岡支部支部長

# 春季二科展 2022年

4月19日（火）～5月2日（月）

東京都美術館（上野公園内）開館時間 9:30～17:30 会期中休館日無し  
 最終日 9:30～14:30（入場は14:00まで）

## 二科春季展絵画部—新しい試み

生方純一（常務理事）

\*\*\* 今期の春季展は新しい試みが満載です。\*\*\*\*\*  
 東京都美術館公募棟展示スペースが1.5倍に広がり、  
 会期が2週間になり従来の2倍です。

春季展は「新たな試みで、実験・研究の場とする」趣旨でした。しかし、近年会員各自の作品は従来のスタイルを踏襲した小さくまとまった作品が多く、やや鮮度に欠けていたように思います。もう一つの特色としては、本展で受賞した出品者を奨励する意味で選抜展示をおこなっており、選抜出品者の作品は力も入り新鮮で、春季二科展で優秀な作品が展示されます。二科会の趣旨を再認識し、今後は会友、一般出品者にも門戸を広げるべく企画を加え、独自の魅力を放っていきます。自らのステップアップの場としても重要な展覧会です。

新しい試みは二科会の理事自ら率先して「理事がチャレンジ」と称し今までとは違った切り口で試みた実験的要素を含んだ挑戦的な作品を展示することにしました。また、本展受賞者の中から5名の新進作家を選び一人当たり10m分の展示スペースを与え、個展様式の展示をいたします。前回まで一人1点の展示でしたが、与えられたスペース内に大作、小品を問わず何点でも自らの構成で展示でき、有馬広文〔鹿児島〕 石川由巳子〔宮城〕 金折文男〔広島〕 坪田裕香〔石川〕 日比野恵美〔愛知〕 この5名の、作家としての力量が問われ、試練とも言えますが期待を寄せる特別展示であります。

—ご期待ください—

## 春季・二科展出品者支援講座のご案内

先人の成し遂げた成果に学び、自分をブラッシュアップ  
 新たな画材や混合画法に挑戦してスキルアップ  
 そんなきっかけになる講座を目指します。  
 是非、この受講を活かして二科展で輝いてください！

# 第106回 二科展公募 (二科美術展覧会)

## 絵画・彫刻作品出品者公募

会 期 2022年9月7日(水)～19日(月) [13日(火)は休館日]  
 会 場 国立新美術館 東京都港区六本木7-22-2  
 搬 入 8月25日(木)・26日(金) 午前10時～午後4時 (正午～午後1時まで休憩)  
 直接搬入の場合：国立新美術館美術館西門搬入口より  
 地下1階作品搬入受付に搬入。  
 出 品 料 2点まで1点につき1万円、3点目からはすべて5千円  
 出品資格 15才以上、国籍は問いません。

※作品は未発表作品に限ります。下記①・②の作品は未発表作品とは認めません。  
 ①二科展、春季二科展や審査のあるコンクール等において入選・入賞した作品。  
 (ただし、二科会各支部展での発表作品及び卒業制作等は未発表作品扱いとする。)  
 ②サイズ違い等でも過去の入選・入賞作品と同一作品と判定される作品。

未発表具体例を記載しました 参考にご覧ください

### ●絵画部

50号～F100号 (S100号は不可)  
 変形サイズは、F100号の長寸162cmを越えないもの。  
 平面積がF100号の縦×横をこえなければ出品可。

#### ■授賞

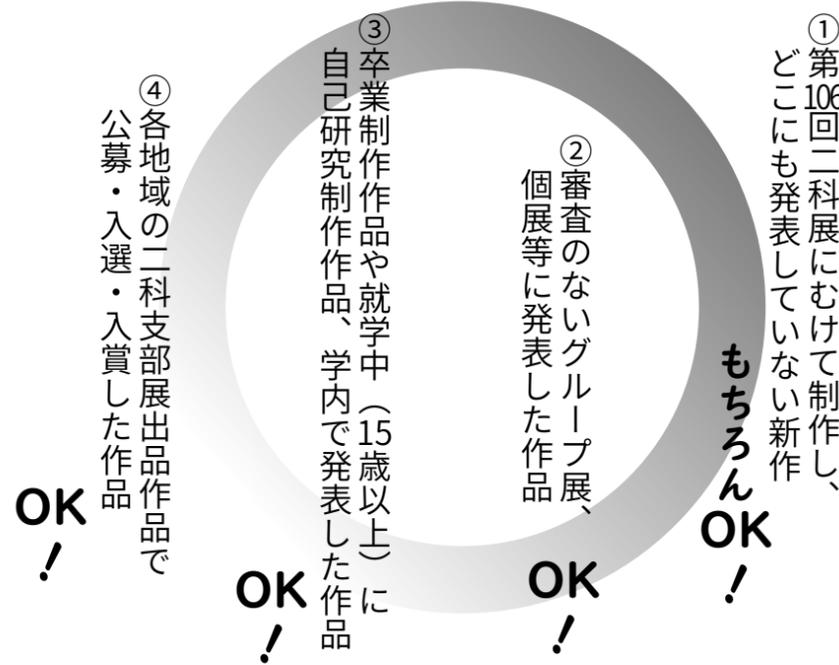
- 内閣総理大臣賞
- 東京都知事賞
- 二科賞
- パリ賞
- SOMPO 美術館賞
- 上野の森美術館奨励賞
- 特選
- 二科新人賞
- 新人奨励賞

### ●彫刻部

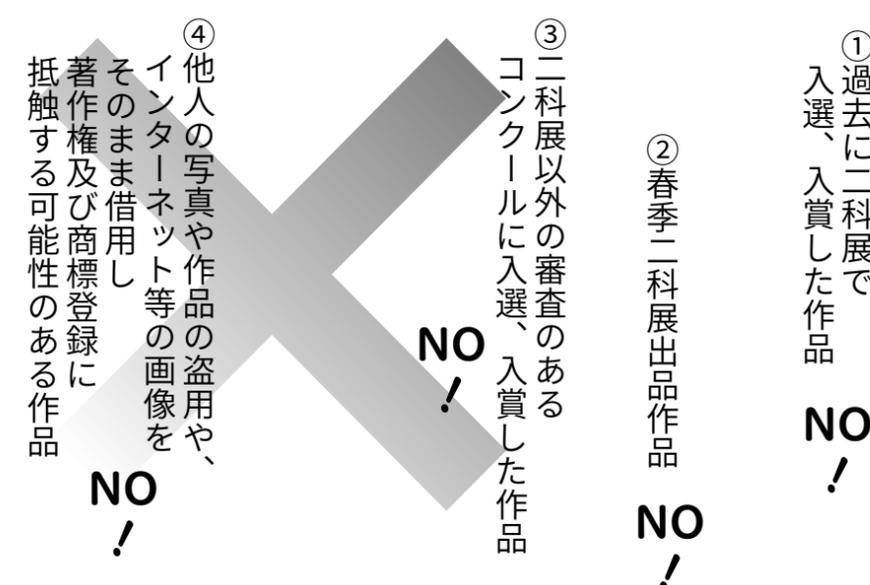
作品サイズ、高さ(H)3m以内。幅(W)、奥行(D)ともに4m以内で、幅(W)×奥行(D)の面積が4㎡を超えないもの。  
 高さ3m×幅2.5m×奥行3.5mのエレベーターで運べる大きさで、天井高4mの所で組み立て可能なもの。  
 ※野外展示作品は上記以上でも可。  
 重量・1㎡当たり1.5t(室内)、野外は1㎡当たり3t以内。1パーツが3t以内。

#### ■授賞

- 文部科学大臣賞
- 二科賞
- ローマ賞
- 彫刻の森美術館奨励賞
- 特選



いざ第106回二科展に挑戦！  
 この作品出品できる？  
 できない？



### ◎出品規約を熟読しましょう

絵画、彫刻ともサイズ等の規約違反や出品票記入漏れがないよう、出品前にもう一度規約を熟読して下さい。出品できるかどうか判断できない場合や、不明な点があれば遠慮なく支部や事務局にお問い合わせください。

オリジナリティーあふれる作品をお待ちしています！

### 《要注意》

過去に二科展等に入選、入賞した作品を手直し、加筆をして出品すると新作と認められない場合がありますので以下をお読みいただき出品準備ください。

- ◆絵画部門で一度応募した作品は、必ずもう一度下塗りしてリニューアルしてください。
- ◆キャンバス再利用の場合、裏面の白チョークの入落チェックマークを完全に消して出品してください。
- ◆変形キャンバスを出品したい場合は、規約寸法以内であれば出品可能です。
- ◆油彩以外の画材による作品でも出品できます。(絵画)

第106回二科展より新設します。

## 彫刻部 新カテゴリー作品募集!

- 30×30×30 cmの立方体に収まる作品。
- 展示はステンレス台座(35×35×110)を使用します。



二科会公募情報

二科展出品お問合せ

詳しくは二科会事務局 03-3354-6646 へお問い合わせください。  
 二科会ホームページからも出品要綱ダウンロードできます。

絵Q1・額装なしでも出品できますか？

A：幅3cm以内の飯額を必ずつけてください。奥行（厚み）10cm以内。現代アートでは額なし展示もありますが、二科展では作品保全の観点から額装を原則としています。破損は自己責任になりますのでご注意ください。

絵Q2・若い人向けの出品情報などはありますか？

A：二科展では35歳以下の出品者に向けてU35という出品制度があります。出品料が軽減され、U35出品者対象に対して、二科新人賞、新人奨励賞、も設けられています。

絵Q3・絵画作品輸送や搬入方法を教えてください。

A：個人搬入の場合①レンタカーや自家用車②公共交通機関二つの方法があります。業者を利用の場合③美術品専門業者④赤帽⑤運送業者を使った共同搬入があります。③の美術専門業者は安心ですが費用がかかります。おすすめは⑤の共同運送業者です。作品の大きさ、出品点数、配送費、高速代や燃料費などそれぞれの費用と国立新美術館までの距離を相対的に考えて選択ください。二科会では二科展推薦搬入代行取扱業者を紹介しています。事務局にお尋ねください。

彫Q4・素材について

注意することはありませんか？

A：石膏・木・石・金属・FRP・ミクストメディア等様々な素材があります。人体をモチーフにした作品の場合は足首や指先、抽象作品では細く突起している部分に注意が必要です。石膏など十分な強度がない場合、運搬・展示の際、ひびが入り破損する例がありました。素材により腐敗するもの、木の中に虫の混入が確認され処理が完全でないものは、展示出来ない場合があります。庭木を切り使用する場合十分な乾燥と虫の駆除が必要です。石などの重量物は野外搬入となりますので安全な装備を心掛けてください。

彫Q5・台座を借りる場合はどうしたら良いですか？

A：台座は作品の一部として見られることもあり、作品に合ったものを自分で製作することが大切ですが、国立新美術館でも貸し台座があります。単なる置台にならないように作品の大きさカタチを考え、貸出台座リストから選んでください。床面に直接展示を考えると作品ならば台座は必要ありません。

彫Q6・養生はどうすればいいですか？

A：作品や台座の底面には美術館を傷つけない為に必ず養生をします。家具などのフローリング保護用のフェルト

シールが便利です。100円均一ショップにも良いものがあります。底面に工夫しご自身で貼ってお持ちください。展示に際し不安定なもの危険なものは受付できません。台座に固定するなど完全に留意した展示方法も考えて制作してください。展示を想定することも制作の一過程とお考えください。

彫Q7・彫刻作品の搬入方法を教えてください。

A：個人搬入の場合①レンタカーや自家用車での搬入②公共交通機関の二つの方法が考えられます。作品の大きさ、配送費、高速代や燃料代などそれぞれの費用と六本木の国立新美術館までの距離を相対的に考えて選択ください。積み下ろしはスタッフがお手伝いしますので搬入時受付にお声掛けください。業者搬入の場合③美術専門業者④赤帽⑤単身引越しパック⑥宅配便・ゆうパック⑦運送業者を使った共同搬入があります。③専門業者は、費用は掛かりますが作品梱包も含め安心できます。④⑤⑥の場合、梱包は自己責任になります。作品が破損しないように注意を払うことが大切です。配送受け取りは、指定業者受取先対応になりますので予約が必要で

創造は構想の段階からどのように成立させるかを考え取り組み、命を吹き込む仕事です。納得のいくところまで制作する為に、出品を決めたら搬入日から逆算し計画を立てることが大切です。責任をもって制作した作品が無事に手を離れ実際の空間へ展示され、いつもとは違う空間で作品を観る。その時会場は新たな気付きの宝庫となり自らを成長させてくれます。来場者に観ていただく嬉しさ、同じ立場の制作者との出会いは、具体的な技法や悩みなどを解決できる機会でもあり大きな刺激となります。それは次へのステップとなり、新たな作品のヒントを得られる喜びでもあります。自分の分身：命が吹き込まれた魅力的な作品を私たちは待っています。

募集要項をご希望の方は、二科会事務局までご請求ください。郵送でお届けいたします。また、ご不明な点などございましたら、お電話でお問い合わせください。



最新の情報  
募集要項等は  
二科会ホームページ  
をご覧ください

◆私の二科展初出品のこと◆◆◆

香川 猛（常務理事）

大学に入学しての最初の夏休みは受験戦争から解放されて、思い切り遊んでいた。鎌倉は由比ヶ浜、海水浴と砂遊び、当時流行の「太陽族」まがいの軟派に明け暮れていた。当時はそんな遊びが当然のように思っていた。ある日突然、学校が近くにあるのを思い出し、「夏休みの学校はどうなっているのか」興味がわいて急に行ってみたくなった。

美術教室に入って驚いた。先輩たちが大きな画面を壁に立て掛けて、一心不乱に制作していた。ベニヤ板3枚を繋げた巨大画面に立ち向かっている者もいた。ペイントやエナメル缶、刷毛やローラー、お皿やお椀、ペンチやノコギリ等が辺り一面、ところ狭しと散乱し、さながら制作の戦場であった。汚れた作業服での制作姿勢は迫力があり、その熱気に圧倒された。遊びに明け暮れていた怠惰な私の習慣が恥ずかしかった。

次の日、仲間に入れていただき、私も制作することができた。用具や材料は親切な先輩たちが譲ってくれた。とりあえず、ベニヤ板半分に枠を付けて、水で溶いた石膏をその上に流して下塗りとした。使い古しのローラーに灰色を付けてその上を転がした。子供の頃に遊んだ砂浜のイメージが広がった。石ころや貝殻や水溜まりが出現した。少しずつ加筆して楽しんだ。そうこうしていると、突然、美術の教官が教室に入ってきた。私の絵を見て「これは面白いぞ。」と笑いながら言われたので気分を良くした。先輩たちは教官が新制作協会の会員（審査員）でしたので、新制作展への出品を目指していたのでした。教官の批評も大変勉強になった。でも、新制作一辺倒でなく先輩たちの中には一足早い二科展に出品する者もいた。「二科展行きのトラックが出るぞ!!他に出品する者はいないか?」の声が聞こえた。「チャンス!!私の絵をお願いします。」 題名は遊びの広場とし、これが二科展初出品となって、見事に入選し第4室に展示された。以後約65年間二科にお世話になることになりました。

苦節65年、順調の時もあれば、副業で苦しい制作活動が続く時も多かった。デッサンも大切だが、材料の特徴を掴む感覚や体験から生まれるイメージの定着技術も大切です。知識や教養も大切ですが、それより新しい生活への適応力や忍耐力が必要かと思えます。二科会で長きにわたり勉強させていただき、今は感謝の気持ちでいっぱいです。

わたしたちが伝えたいこと II

◆私の二科展への出品◆◆◆

小田信夫（理事）

二科に出品し始めて50年程に成りますが、始めの頃は塑像を主に発表していました。ただ制作活動においては素材としての木への憧れもあり一度木彫を出品した事があります。彫刻は芸大に入学してから本格的な勉強をしたのですが、木彫が課題とされた時など上手く制作が進まず、すごすごと退散した事もあり大変悔しい思いをした覚えがあります。以来、「何時かは何かものにしてやろう」という気持ちは持ち続けていました。自分の体質としてはモデリングの方が向いていて、カービングは体質的に相性が悪いのかと諦めかけた事もありましたが、卒業制作で主たる素材以外による作品の提出要件があり木彫を選択した。実材に向かうと彫るという事がうまくできずサンダーで削るという方法で自分をなだめる様にして制作したのですが、この経験は私には後々かけがえのないものとなりました。

卒業後大阪に戻り活動し始めて直ぐに色々な仕事をするなかで、学部や大学院の芸大での研究経験など一瞬にして吹っ飛ばす様な体験をしました。その現実体験とはJR大阪駅そばの地下街や大阪梅田桜橋の近鉄ビル1階のエントランスロビーであるとか、全長50メートルにも及ぶ現場を前にしては、『何と些細で微弱なるものか』と嫌になる程思い知らされ、大変良い勉強ができました。元々創作活動とは非常に個人的な作業ではあるのですが、一步でもアトリエから作者の手元を離れて、作品は公的や準公的なものとして動き始めて一人歩きし始めます。まるで作品は自分の分身となり世の中に放たれたといい得るのかと思えます。ただそのことが彫刻という分野を選択して私が活動し続ける意味の本望とする所でもあると思うのです。それだけに怖くもあるのですが、『私自身の存在の証を世の中へ向かって叫ぶ』という願いと重なり私自身の本分とするところでもあります。

そして又、数年前には木を彫りたくなる形に会い櫛の木を彫り始めたのですが、やはり木とは相性が悪いと思わせる様に、酷いぎっくり腰をやってしまい半年近く制作出来ず、がっかりしました。翌年にまたがり2年越しにて久しぶりの木彫を出品しましたところ、長年縁の無かった賞に恵まれました。

私はやはり・・・大阪のおっさんです、その旨みの誘惑を受け、以来木彫を中心に出品していますが、そろそろ又放浪の旅にでも出る如く、今とは方向の違った制作を始めようと思案しているところです。

# 第105回記念二科展 外部審査員選考評

建畠 哲

埼玉県立近代美術館館長  
多摩美術大学学長  
美術評論家・詩人

新型コロナウイルス禍でご苦労が多かったであろうが、関係者の方々のご尽力で二科展の開催に漕ぎ着けられたことをうれしく思っている。制作とは孤独な営為ではあるが、年に一回のこのイベントの求心力が会員や応募者の方々の新作への挑戦意欲を支え、歴史ある団体としての存在感を維持し続けてきたに違いない。

私は外部審査員として今回の賞の選考の末席に加わった。それだけの経験で何か分かったようなことをいう資格はないが、アカデミズムを排したところで二科会らしい気風を培ってきた現場を垣間見ることができたように思う。

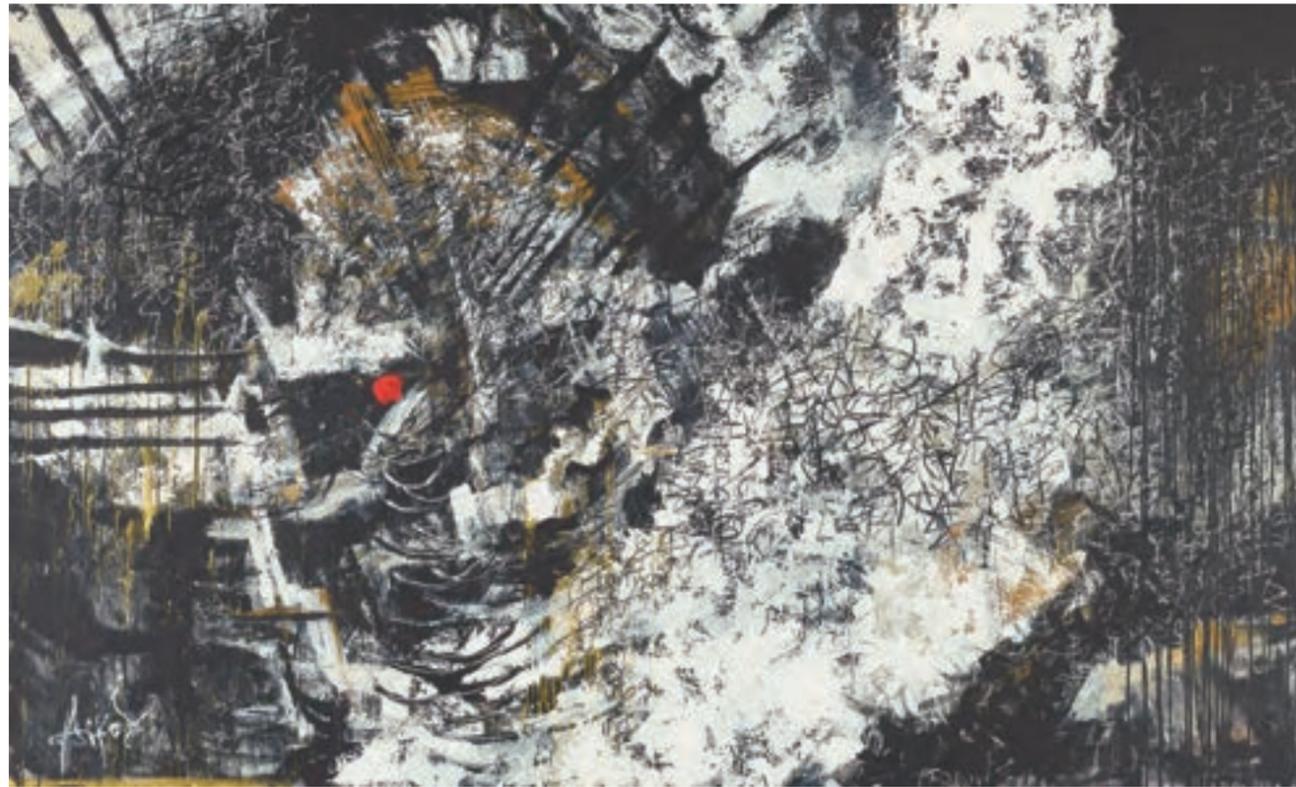
さて内閣総理大臣賞の須藤愛子の〈Le Vent〉は、ほぼモノクロームに近いまでに抑制された色調の画面に放射状に散開するストローク、微細に屈曲し絡み合う即興的な筆の走り、垂直に落ちる線の羅列などが配されている。白と黒の大胆な色面構成のダイナミズムとニュアンスに富んだディテールとを共存させた空間だが、そのところどころに暖色系の色合いを潜ませ、意表を突くように赤を置いていることの不可思議な効果に惹かれた。

東京都知事賞の石橋国夫の〈気配〉は、半ば抽象的な混沌とした画面だが、よく見れば崩れかけた石垣を植物の根や茎が網目状に覆った光景のようでもある。丸みを帯びた石組み(?)の武骨なイメージと網目が醸し出す優美にしてどこか不穏でもある振動感との対比が興味深い。無色彩的な地の上に暖色系の色彩を重ね合わせることで生じる独特の感覚が(須藤の作品以上に)鮮明に浮かび上がっている点にも注目した。

二科賞の堀谷莉恵の〈心III〉(絵画部)は動物をモチーフにした特異な幻想の場面で、グリッド状の枠に細かく描き込まれた背景の上に謎の有機的な形象と毛むくじらの動物が浮かび、手前にはそれを見ている五匹の猫の後ろ姿を並べるといふ、何とも奇妙な印象をもたらさずにはおかないイメージに目を奪われた。

第105回記念大賞(絵画部)の〈レクイエム〉では、どこかしら人体のようでもある巨大な樹の幹を明暗のグラデュエーションで描いた画面のスピリチュアルな雰囲気濃厚さと、それを支える確かな描写力を高く評価したい。

彫刻の文部科学大臣賞の〈空の話〉は、二人の少女と台座を一つの石のブロックで一体として制作した作品である。空を見上げる少女はノミ跡を残す技法で彫られているが、硬質の石から心が和むような優しくやわらかな情感が生まれていることに魅せられた。



内閣総理大臣賞 『Le Vent』 須藤愛子



東京都知事賞 『気配』 石橋国夫



大臣賞審査風景





文部科学大臣賞  
『空の話』 宮澤光造



第105回記念大賞 『レクイエム』 中澤純代



二科賞 『心Ⅲ』 堀谷莉恵

絵画部受賞者

◎内閣総理大臣賞

須藤愛子〔神奈川〕

◎東京都知事賞

石橋国夫〔滋賀〕

◎二科賞

堀谷莉恵〔熊本〕

◎第105回記念大賞

中澤純代〔神奈川〕

◎パリ賞

該当者なし

◎SOMPO美術館賞

平林直哉〔鹿児島〕

◎上野の森美術館奨励賞

野口 晃〔東京〕

◎会員賞

飯田由美子〔北海道〕

大築笙子〔北海道〕

酒井とし子〔埼玉〕

谷口貞久〔奈良〕

村山成夫〔新潟〕

◎会友賞

猪立山三鈴〔福岡〕

上田有見子〔大阪〕

内木孝志〔大阪〕

加藤弘子〔埼玉〕

木村信子〔京都〕

倉本郁夫〔広島〕

小原禎二〔神奈川〕

清水尚子〔神奈川〕

武部美智子〔青森〕

田中とも恵〔和歌山〕

田上俊一〔熊本〕

中田 登〔北海道〕

増田裕成〔兵庫〕

矢島和子〔神奈川〕

安 新治〔茨城〕

◎特選

朝岡幸子〔茨城〕

岩田恵美子〔愛知〕

石見香賀里〔福岡〕

上原 淳〔千葉〕

岡田祐加子〔大阪〕

今野真由美〔神奈川〕

俊 悦治〔千葉〕

杉戸順子〔愛知〕

瀧 進〔静岡〕

長澤登美子〔山梨〕

森山麗子〔兵庫〕

矢島初子〔東京〕

山浦はるみ〔千葉〕

◎第105回記念賞

相原俊幸〔神奈川〕

有賀康治〔神奈川〕

大吉正子〔茨城〕

川崎美紀〔東京〕

中村英二〔福岡〕

中村弘道〔東京〕

橋本則子〔京都〕

番場美和子〔新潟〕

三浦薫子〔東京〕

山本知子〔鳥取〕

米村保明〔熊本〕

◎二科新人賞

春木 凜〔大阪〕

◎新人奨励賞

嵐 蒼樹〔石川〕

飯島彩子〔東京〕

吉田瀬七〔宮城〕

彫刻部受賞者

◎文部科学大臣賞

宮澤光造〔東京〕

◎二科賞

平良光子〔神奈川〕

◎第105回記念大賞

長谷川 聡〔神奈川〕

◎ローマ賞

該当者なし

◎彫刻の森美術館奨励賞

齋藤玲奈〔埼玉〕

◎会員賞

日置万里〔東京〕

宮路久子〔茨城〕

◎会友賞

稲葉 朗〔東京〕

澤田志功〔埼玉〕

◎特選

井上幸夫〔群馬〕

川口三千雄〔東京〕

◎第105回記念賞

該当者なし

絵画部推挙者

◎会員推挙

稲増克彦〔奈良〕

今村恵利子〔熊本〕

片岡佐智子〔千葉〕

金折文男〔広島〕

蒲田 宏〔神奈川〕

合田紘露胡〔愛知〕

竹淵直美〔埼玉〕

津田佐千子〔石川〕

縄井かつみ〔神奈川〕

平林直哉〔鹿児島〕

◎会友推挙

井川誠一〔大阪〕

池杉拓海〔神奈川〕

石川篤司〔大阪〕

出月智子〔山梨〕

大西正昭〔福岡〕

岡山芳彦〔茨城〕

川口福代〔東京〕

川崎英世〔東京〕

古賀のぼる〔愛知〕

小南治次〔滋賀〕

島崎紗椰〔京都〕

彫刻部推挙者

◎会員推挙

カツノユキコ〔東京〕

中山憲雄〔愛知〕

◎会友推挙

井上なきさ〔神奈川〕

井上幸夫〔群馬〕

平良光子〔神奈川〕

玉田真理〔東京〕

渡邊恵子〔神奈川〕

第105回記念二科展  
受賞者選抜小品展開催

主催＝公益社団法人二科会

会場：帝国ホテル二科サロン〔入場無料〕  
帝国ホテル インペリアルタワー・ギャラリー  
(東京都千代田区内幸町 1-1-1)

第1期 令和4年1月11日(火)～4月5日(火)

須藤愛子 今村恵利子 合田紘露胡 平林直哉 木村信子  
田上俊一 上田有見子 武部美智子 川口福代 春木 凜

第2期 令和4年4月5日(火)～7月5日(火)

谷口貞久 酒井とし子 片岡佐智子 竹淵直美 内木孝志  
倉本郁夫 増田裕成 猪立山三鈴 池杉拓海 川崎英世 野口 晃

第3期 令和4年7月5日(火)～10月4日(火)

石橋国夫 村山成夫 金折文男 津田佐千子 中田 登  
清水尚子 矢島和子 加藤弘子 出月智子 西 夏希 中澤純代

第4期 令和4年10月4日(火)～1月10日(火)

飯田由美子 稲増克彦 蒲田 宏 縄井かつみ 堀谷莉恵  
田中とも恵 安 新治 小原禎二 井川誠一 岡山芳彦 渡邊恵子

※各会期の最終日は12:00まで、次の開始時間は同日14:00より



絵画部



彫刻部

二科会 HP より  
受賞作品が  
ご覧になれます。

絵を描けるといいうのは  
幸せなんですね  
もうすぐ100にとどく  
私が言うのですから  
間違いありません  
静かな風景の中に  
新しい風を感じながら  
スケッチをして  
キャンバスに向かうんですね

田中良



田中 良 会員

- 1923 生まれ
- 1953 第38回二科展初入選
- 1958 第43回二科展特選受賞
- 1960 社団法人二科会会友推挙
- 1974 第59回二科展会友特賞受賞
- 1976 社団法人二科会会員推挙
- 1985 第70回二科展会員努力賞受賞
- 2010 公益社団法人二科会理事長就任
- 現在 公益社団法人二科会理事長

— 制作の現場から —

二科会出品者最高齢にして現理事長

# 田中良の ATELIER

# 『石場』

：石を彫る場所

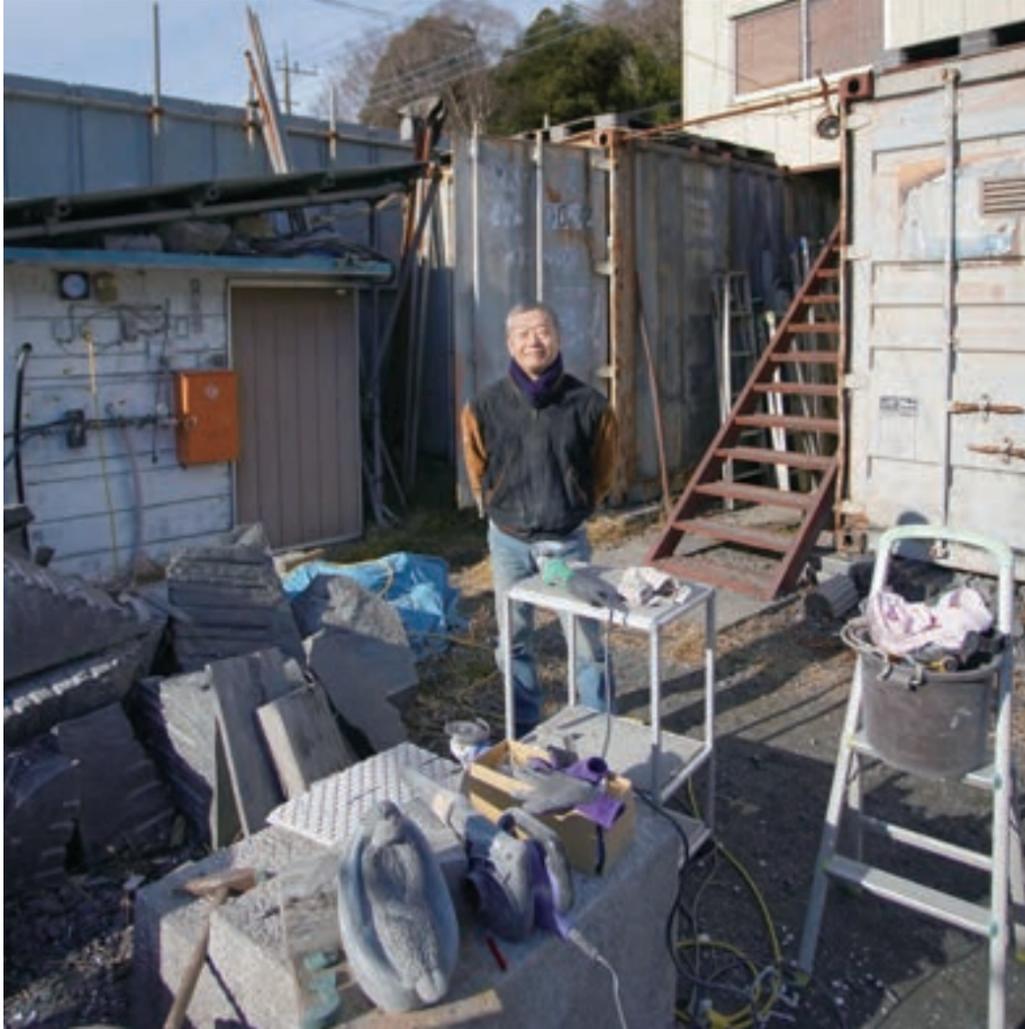
## 藤沢 恵 会員

2007 第92回二科展初入選  
 2009 第94回二科展特選受賞  
 2015 公益社団法人二科会会友推挙  
 2018 第103回二科展会友賞受賞  
 2019 公益社団法人二科会会員推挙  
 現在、今年の秋開催の  
 第29回UBEピエンナーレ  
 現代日本彫刻展で実物を展示する  
 15点に選ばれ制作中  
 アトリエ所在地／埼玉県越谷市



## 宮澤光造 会員

1983 第68回二科展初入選  
 1984 第69回二科展特選受賞  
 1986 社団法人二科会会友推挙  
 1997 第82回二科展会友賞受賞  
 1999 第84回二科展ローマ賞受賞  
 2000 社団法人二科会会員推挙  
 2009 第94回二科展会員賞受賞  
 2021 第105回記念二科展文部科学大臣賞受賞  
 アトリエ所在地／東京都町田市



コロ、三又、掛け声  
 今も心に浮かぶ石場の情景

掛け声とともに人が集まり  
 巨石が動く

時代が移り、  
 フォークリフト  
 電動クレーン  
 工具やアトリエの状況が  
 移り変わっても

石場に石彫家が集う  
 話しは決まって  
 石のこと、道具のこと

そして忌憚のない  
 作家としての語りの場

それは  
 昔も今も変わらない

菅原二郎



## 菅原二郎 会員

1964 第49回二科展特選受賞  
 1966 社団法人二科会会友推挙  
 1967 第52回二科展二科金賞受賞  
 1969 社団法人二科会会員推挙  
 1988 第73回二科展会員賞受賞  
 1996 第81回二科展文部大臣賞受賞  
 現在：公益社団法人二科会常務理事  
 アトリエ所在地／茨城県桜川市

- |                               |   |
|-------------------------------|---|
| 北海道支部<br>TEL：011-882-2954(飯田) | 北陸(石川・福井)支部<br>TEL：076-229-2939(粕谷)         |
| 青森支部<br>TEL：017-721-5622(木村)  | 富山支部<br>TEL：0763-64-2637(柳田)                |
| 秋田支部<br>TEL：090-9031-3591(石黒) | 東海(愛知・三重・岐阜)支部<br>TEL：080-3258-4515(三後)     |
| 岩手支部<br>TEL：0193-25-0241(佐々木) | 京滋(京都・滋賀)支部<br>TEL：090-8375-5779(入佐)        |
| 山形支部<br>TEL：090-9960-7177(町田) | 関西(大阪・兵庫・奈良・和歌山)支部<br>TEL：090-7753-1611(尾崎) |
| 宮城支部<br>TEL：090-2993-8008(及川) | 鳥取支部<br>TEL：0857-23-2477(木下)                |
| 福島支部<br>TEL：080-5577-3716(須田) | 広島支部<br>TEL：090-7138-0189(高松)               |
| 群馬支部<br>TEL：090-5404-0137(石本) | 愛媛支部<br>TEL：089-926-2768(黒川)                |
| 栃木支部<br>TEL：0285-27-9380(添野)  | 高知支部<br>TEL：090-2890-5892(徳弘)               |
| 茨城支部<br>TEL：090-8114-7381(山中) | 香川支部<br>TEL：087-867-7297(町川)                |
| 埼玉支部<br>TEL：048-296-1275(山下)  | 福岡支部<br>TEL：090-5295-2058(田浦)               |
| 千葉支部<br>TEL：090-4169-6576(皆川) | 大分支部<br>TEL：0972-46-1343(加藤)                |
| 東京支部<br>TEL：090-7006-0792(森岡) | 佐賀支部<br>TEL：0952-29-4708(山崎)                |
| 神奈川支部<br>TEL：042-784-2324(吉田) | 長崎支部<br>TEL：090-4512-5468(山下)               |
| 新潟支部<br>TEL：090-5782-3099(村山) | 熊本支部<br>TEL：090-7387-4664(木戸)               |
| 長野支部<br>TEL：080-5120-4717(上林) | 宮崎支部<br>TEL：0985-25-1358(森山)                |
| 山梨支部<br>TEL：0551-32-3661(矢野)  | 鹿児島支部<br>TEL：090-4352-7897(祝迫)              |
| 静岡支部<br>TEL：0545-71-0258(石倉)  | 沖縄支部<br>TEL：090-1083-3965(西村)               |

- \*彩美堂(株)上野店(事務連絡先)  
〒110-0015 東京都台東区東上野4-1-9-1F  
TEL：03-5827-5155
- \*彩美堂(株)足立営業所(荷受先)  
〒121-0062 東京都足立区南花畑4-33-7  
TEL：03-5242-3701
- \*彩美堂(株)広島支店  
〒733-0006 広島県広島市西区三篠北町3-48  
TEL：082-237-1012
- \*ヤマト運輸株式会社 東京美術品公募展支店  
〒135-0062 東京都江東区東雲2-2-3 東雲ビル2F  
TEL：03-3529-0838
- \*ヤマト運輸株式会社…関東以外の方は当社HP  
[https://www.y-logi.com/service/art/jigyosho.php]をご覧ください。
- \* (株)ハート・アンド・アート東京営業所：全国  
〒135-0053 東京都江東区辰巳2-4-4 TND潮見センター5F  
TEL：03-6457-0961
- \* (株)ハート・アンド・アート大阪営業所  
〒559-0024 大阪府大阪市住之江区新北島8-1-32  
TEL：06-6683-9650
- \* (株)アートライン東京  
〒123-0862 東京都足立区血沼1-12-15  
TEL：03-5691-1141
- \* (有)アートン  
〒252-0821 神奈川県藤沢市用田211-4  
TEL：0466-48-8488 HP[https://www.arton.events]
- \* (株)東美本社(首都圏受付センター・地方着荷所)  
〒151-0071 東京都渋谷区本町5-30-12  
TEL：03-3376-8148
- \* トータスマイアートクラブ  
〒352-0015 埼玉県新座市池田3-3-2  
フリーダイヤル 0120-277-812
- \* マツモト額縁店  
〒241-0813 神奈川県横浜市旭区今宿町2569-128  
TEL：045-442-8278
- \* アトリエ モネ  
〒227-0031 神奈川県横浜市青葉区寺家町353-2  
TEL：045-530-3993 (携帯090-7717-2125)
- \* (株)マルイ美術  
〒607-8165 京都府京都市山科区柳辻平田町137  
TEL：075-592-3670

☆なお、上記二科展推薦搬入出代行業者以外の取扱店搬入や、個人の直接搬入もできます。

編集後記  
今年もコロナ禍が続く様相です。困難な中でも制作の思いは絶えることなく続きます。二科展を愛する仲間、そして春そして秋に二科展を楽しみにしてくれているお客様に、この広報二科が届けられるようにと思います。

(菅)

広報二科

令和四年三月一日発行  
発行所：公益社団法人二科会  
〒160-0022  
東京都新宿区新宿四、三、五  
レイフラット新宿五〇号  
電話 〇三、三三五四、六六四六  
FAX 〇三、三三五四、四七六八  
電子メール nika@nika.or.jp

発行人：田中 良  
編集責任者：菅原二郎  
横前 珠世  
横前 秀幸  
佐々木里華  
阿部昌義  
山田美智子

印刷：ニューカラー写真印刷  
©公益社団法人二科会 2022



二科会事務局

東京都新宿区新宿 4-3-15  
レイフラット新宿 501号  
TEL：03-3354-6646  
E-mail：nika@nika.or.jp

